

# 平成26年度決算報告書

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	266,513,031	流動負債	28,756,128
固定資産(基本財産)	781,766,445	固定負債	163,525,469
固定資産(その他の固定資産)	97,353,380	負債の部合計	192,281,597
		純資産の部	金額
		基本金	158,364,434
		国庫補助金等特別積立金	289,508,374
		次期繰越活動収支差額	505,478,451
		(うち当期活動収支差額)	△ 11,397,290
		純資産の部合計	953,351,259
資産の部合計	1,145,632,856	負債及び純資産の部合計	1,145,632,856

		勘定科目	金額
事業活動収支の部	収入	介護保険収入	415,970,000
		利用料収入	3,534
		医療事業収入	10,712,120
		経常経費補助金収入	3,105,680
		寄付金収入	380,000
	支出	雑収入	1,748,439
		引当金戻入	15,086,421
		国庫補助金等特別積立金取崩額	12,220,183
		事業活動収入計(1)	459,226,377
		人件費	294,848,850
事業活動外収入の部	事務費支出	54,945,427	
	事業費支出	74,044,065	
	利用者負担軽減額	427,697	
	減価償却費	26,017,714	
	引当金繰入	18,176,832	
	経常支出計(2)	468,460,585	
	経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 9,234,208	
事業活動外収入の部	収入		
	受取利息配当金収入	369,191	
	経理区分間繰入金収入	87,873,434	
	その他の事業活動外収入	1,453,900	
	事業活動外収入計(4)	89,696,525	
事業活動外支出の部	支出		
	借入金利息支出	1,974,975	
	経理区分間繰入金支出	87,873,434	
	雑損失	55,000	
	その他の事業活動外支出	1,956,191	
	事業活動外支出計(5)	91,859,600	
	事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△ 2,163,075	
	経常収支差額(7)=(3)-(6)	△ 11,397,283	
	特別収支差額(10)	△ 7	
	当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	△ 11,397,290	
繰越活動収支差額の部	前期末繰越活動収支差額(12)	481,921,142	
	当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	470,523,852	
	基本金取崩額(14)	0	
	基本金取崩額(15)	0	
	その他の積立金取崩額(16)	34,954,599	
	その他の積立金積立額(17)	0	
	次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	505,478,451	

## 事業実績

平成26年度事業実績は、施設入所の稼働率が94.4%、平均要介護度は3.97で、短期入所の稼働率が112.6%、平均要介護度は2.77でした。

最高齢は104歳1ヶ月、最年少は66歳7ヶ月で、平均年齢は男性が83.3歳、女性が88.4歳でした。

平成26年度は「小規模多機能ようせいの家」の開所に伴い、当期活動収支差額は△11,397,290円でした。

## フロア紹介

**西1階**は、職員もご利用者も一番多いフロアです。ご利用者が毎日笑顔でいられるように、ご利用者とのコミュニケーションを大切に、ご利用者の趣味や嗜好に合わせて、レクリエーションや外出などに力を入れています

**西2階**は、外出・お散歩・行事の参加、レクリエーションではボール遊び・習字・カラオケ・花火などを行い、ご利用者と職員が笑顔で楽しんでいます。ご利用者に協力して頂いたり、また職員同士で助け合ったりし毎日、勉強させて頂いています。ちなみに職員の平均年齢の高さナンバーワンのポジションは守っています。

**東1階**は、様々なレクリエーションを企画し、ご利用者に楽しんで頂ける様に心掛けています。また、外出もお寿司屋さんに行ったり、デパートに行ったりといろいろな所に行っています。ご利用者、職員笑顔をお忘れずに楽しく頑張っています。

**東2階**は、元気なご利用者が多いのでリハビリやレク、余暇活動に力を入れています。今年からベランダで園芸を始めました。ご利用者と一緒に毎日かかざず水やりをしました。努力の甲斐あって今年はひまわり、朝顔、トマトが育ちました。トマトは収穫しご利用者に食べて頂いたりしました。これからも、ご利用者のご希望をかえられるように努力していきます。

# しずはら

平成28年 第19号 (平成28年3月号)

〒601-1121  
京都市左京区静市静原町582番地の1  
社会福祉法人 松光会  
特別養護老人ホーム 静原寮  
TEL075-741-2866/FAX075-741-1761  
ホームページアドレス <http://www.shizuhararyo.com>  
E-mail [shizuhararyo@kyoto.zaq.ne.jp](mailto:shizuhararyo@kyoto.zaq.ne.jp)  
発行責任者/ 奥本喜裕

## 特別養護老人ホーム 静原寮 施設長 奥本喜裕

静原寮に昨年4月に施設長として着任してから、一年近くが経とうとしていますが、広報誌面では初めてのご挨拶になります。改めましてよろしくお願い申し上げます。静原寮に来る前は、30年近く府下と市内の高齢者施設で、介護業務、相談援助業務、管理業務等に携わって来ました。この30年間は、我が国の介護の制度やケアの考え方が大きく展開し変化してきた時期でもありました。ゴールドプランの下での超高齢社会の到来に向けた大規模な介護サービスの整備に始まり、措置制度から介護保険制度への制度転換、集団処遇から個別ケアへの流れやユニットケアをはじめとする小グループケアなどケアサービスの考え方の展開、施設でなく地域社会で要介護者や認知症の方の生活を支える地域包括ケアの考え方や地域密着型サービスの登場等、目まぐるしく新しい仕組みや考え方が登場してきたのでした。それに加えて、この間、わが国が経験した阪神淡路大震災、新潟中越沖地震、東日本大震災という三つの大きな震災は、地域コミュニティの在り方や概念を大きく変化させ、高齢者の地域での暮らしそのものにも大きな変化をもたらしたのでした。これらの高齢者を取り巻く状況の変化は、その度に私たち介護サービスを提供する者に新たな課題を提示してきています。

静原寮は、開設後40年近い歴史を重ねる京都市内の特別養護老人ホームの中では歴史のある施設で、長年の歴史に支えられて静原寮らしい特徴的な介護サービスの伝統と組織風土を築いて来られていると思います。緩やかな時間の流れる静原という土地柄からか、ご入居者も落ち着いた環境の中で日々の生活を送られているように感じます。長年積み重ねられた時間に支えられて作り上げられてきた施設の特色は何物にも代えがたい財産だとつくづく思うのですが、それでも時代は動いています。

テレビやラジオの番組で、京都等の色々な老舗のご主人が異口同音に、伝統とは守るものではない、ということ語られるのをよく聞くことがあります。伝統というのは出来上がったものをただ守るのではなく、創意工夫を加えて新たなものを作り出すことで、それを繰り返すことで初めて伝統は継承され守られていくのだ、という意味なのだと思いますが、多くの老舗で申し合わせたように同じことが語られる所に、何百年も京都の伝統文化を支えてきた職人の心意気のようなものを感じます。同時に、この考え方は私たちのケアサービスの仕事にも共通するものがあるように思います。どんなに新しく優れたケアの考え方や技術であっても、その意味を正しく咀嚼して自分たちのものにして、更に工夫新しいケアの形を追い求める努力を続けるのでなければ、それは取り入れた瞬間から風化し続けます。ケアは優れて創造的な仕事であって、ケアの形も守るものではないと思います。

静原寮では一年前に初めての施設外の在宅サービスとなる小規模多機能型居宅介護事業所「ようせいの家」を発足させ、また築四十年近くを経て老朽化している特養の旧館部分の改築も喫緊の課題となっています。その意味で静原寮は大きな転換期に差し掛かっていると言えると思います。新たに事業を始めるにせよ施設を建て替えるにせよ、そこには新しい制度や考え方が適用され、旧来の考え方や方法論にとらわれず積極的に新しいケアの形を作っていくことが求められます。静原寮で培われてきたケアの形を尊重しながら、創意工夫を凝らして静原寮らしいケアサービスを作っていければと思います。

宮城かよ子様  
松尾尚武様  
松本陽子様  
熊田義一様  
静原社会福祉協議会様  
株式会社朱常分店様  
京都水産協会様  
京都青果協会様

たくさんのご寄付・ご寄贈  
ありがとうございました。  
皆様のご芳情に厚く御礼申し上げます。

大西チエ子様  
澤田菊枝様  
粟津健司様  
瀧本淳子様

(順不同)

職員一同

## ご寄付・ご寄贈



**しず**かで、ほっこりする自然の中にあり、  
**は**なし声や笑い声のあふれた施設です。  
**ら**い年も、再来年もずっと平穏な毎日をご過ごしていただけるよう、  
**り**よう者様の、尊厳を大切に続けます。 職員一同

